



車内が展示室になる。棚倉町立棚倉幼稚園

移動博物館車「ゆめはく」が拓く アウトリーチ活動の新たな地平

開館当初から精力的に取り組んできた、ひとはくのアウトリーチ活動。瀬戸内海から日本海まで有する兵庫県は、日本で12番目に広い面積を持ち、またかつては5つの国に分かれていたほどの多様な文化と自然環境が息づく地でもある。この豊かな環境を活かしながら、活動は巡回パネル展からセミナー・参画型調査活動へと発展してきた。そして2012年には2tトラック「ゆめはく」を導入して新たに機動力を獲得した。これまで培った24年間のノウハウをつぎ込み、アウトリーチ活動は、さらなる展開を見せている。

■県内をくまなくめぐり、「博物館を届ける」仕組みの構築

兵庫県は広大です。当館を利用しにくい方々へミュージアムのサービスを提供するアウトリーチ活動は、開館した1992年度から、「移動博物館」として実施してきました。これはいわゆる巡回パネル展で、企画展終了後、巡回可能なパネルや軽微な資料を普及課(現生涯学習課)事務職員が選択し、主に社会教育関係施設で一定期間展示させていただくというものでした。

開館10周年を契機に2002年度から開始した「キャ

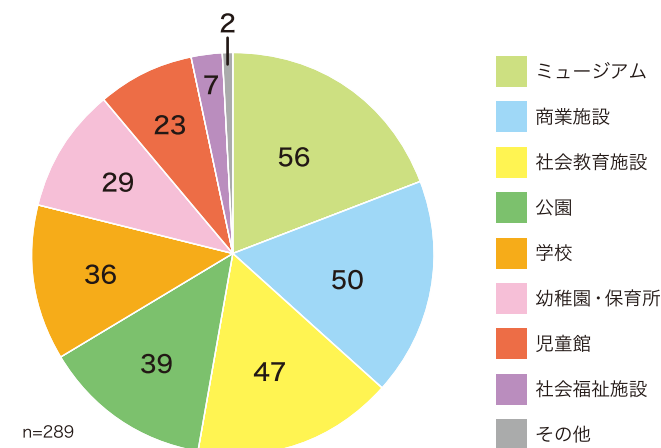
ラバン事業」は、博物館の活動は展示だけではないという信念から、セミナーや参画型調査活動、地元の方の出展等をパッケージとし、県下10地域(神戸、阪神南、阪神北、中播磨、東播磨、北播磨、西播磨、但馬、丹波、淡路)に向けて出発しました。キャラバン事業は、以後、有馬富士公園の開園や山陰海岸ジオパークへの支援、複数年に及ぶ地域研究員の育成等々、館独自にそのつど設定した課題、あるいは外部からの依頼に応える中で柔軟に変容し、巡回展的なものから1日のイベント出展、それらを組み合わせたパッケージなど、多様な形態に分化しました。

■機動性の高い移動博物館車「ゆめはく」が実現した多様な訪問先

開館20周年となる2012年度、当館は移動博物館車「ゆめはく」を導入し、アウトリーチ活動は新たな局面に入りました。それまでのワゴン車による運用では、一度に運搬できる量は限られ、展示什器類を分解して運搬する必要があるなど機動性に難があり、結果として訪問先の選定に制約がありました。2t車「ゆめはく」によってこれらの欠点が解消されただけでなく、車体そのものが展示室となることから、展示資料の管理体制が確保しにくい学校等はもとより、室内空間のない施設へも、訪問しやすくなりました。また、到着から1時間足らずで利用者を迎える準備ができ、特に午前中の活動が求められる幼稚園、保育所への訪問は格段にやすくなりました。公募によって選ばれた車体のラッピングデザインは、幼児に親しみやすく、かつての(ロゴマークのみの)ワゴン車とは大違いです。

「ゆめはく」の導入によって、いっそう多様なニーズに応えるとともに、新たなニーズを掘り起こすことができました。「移動博物館」時代は文化会館やミュージアムが訪問先の8割以上を占めていましたが、「ゆめはく」が導入された2012年以後の5年間では、図のように多様化しました。

「ゆめはく」の訪問先は、どこも、子どもたちの歓声であふれています。地域のすみずみにまで、本物の魅力を伝える「ゆめはく」の活動に、今後もご注目ください。



2012年度から2016年度、アウトリーチ活動での訪問先
年度をまたいで同じ場所への訪問も1件としてカウント。商業施設は、道の駅など。その他は、民間企業事務所、神社。



1.開館20周年記念行事での「ゆめはく」のお披露目 2.貨物船で家島へ向かう 3.「はたらくるま大集合」への出展(東条湖おもちゃ王国) 4.「ゆめはく」車内での標本観察(高砂市立荒井小学校) 5.恐竜化石レプリカや大型昆虫模型で体験への動機付け(三木市立志染保育所、篠山市立たぎ幼稚園) 7.小学2年生と「葉っぱコネクト」~「ゆめはく」での展示見学だけでなく体験型プログラムをあわせて実施することが多い(大阪市立榎本小学校)